

コロナ禍を経て、二つの大イベントがありました。インドでは、インド科学大学院大学ベンガルール校で共催した第1回科学技術イノベーションフォーラム、日本では、インド経営大学コージーコーデ校の学生向けに第1回ジャパン・イマージョン・プログラムを開催致しました。日印研究ラボは、2023年度のJSTさくらサイエンスプログラム最大数のインド人学生を一度に招聘し、その学生たちを最初に受け入れする大学として依頼を受け、日本での学びの機会について学生たちに知らせることができました。また、NEDOプログラムに招かれたのも2回目です。教育・交流活動を継続するにあたり、コンソーシアムメンバーの企業様にもご支援いただきましたことに感謝しております。2023年度の活動報告書をご覧くださいればわかりますが、人と人との交流にあふれた内容になっています。

レクチャーと講義 @ 湘南藤沢キャンパス (SFC)

日印研究ラボは、インドの5大学から6名の教育者とメディアの専門家1名を、日印間のアカデミックな交流を促進するために招聘しました。

● 2023年度春学期：

- ① インド工科大学ルールキー校: ハルシト・ソーサン・ラクラ
- ② インド科学大学院大学ベンガルール校: アンジュラ・グルトゥー教授
- ③ プレス・クラブ・オブ・コルカタ: スネハシース・スール会長
- ④ インド工科大学ニューデリー校: マナビンドラ・サハリア助教



● 2023年度秋学期：

- ① インド工科大学ルールキー校: スピール・セン教授
- ② ジャワハルラー・ネルー大学 (ニューデリー) : スラバニ・ロイチョウドリ教授
- ③ ワディア・インスティテュート・オブ・ヒマラヤン・ジオロジー (デーラドゥン) パンカジ・チヨウハン (6カ月滞在)



「インドクラス」4年目—「インドの文化、環境、テクノロジー」の講義

- 春学期(2023年4月~7月)には、日印研究ラボでは、「インドクラス」として知られている「インドの文化、環境、テクノロジー」の講義を行います。今期で4年目になりました。慶應義塾大学の様々なキャンパスから**179名の学生が受講登録**しました。これは、4年間で60%登録学生数が増えたことになり、喜ばしいことです。本年度は、音楽の授業—コマ対面で実施致しました。横河電機株式会社、スズキ株式会社のピッチ、楽天はイノベーションについて、ニコマ講義を行いました。質疑応答のセッションは、慶應の学生のファシリテーションを通じて行われました。

開発の講義



パデコの宮原光はSFC卒の開発コンサルタントでパデコを通じての開発についてのパースペクティブについて講義をしました(2023年5月)

Online Creative Writing Workshop



2023年6月8日: クリティカル・ライティング・ワークショップ South Asia Alliance of Disaster Research Institutes (SAADRI)、インド工科大学ルールキー校、IJL、Inspire Indonesia が博士と修士の学生向けに実施しました。

イノベーションの講義

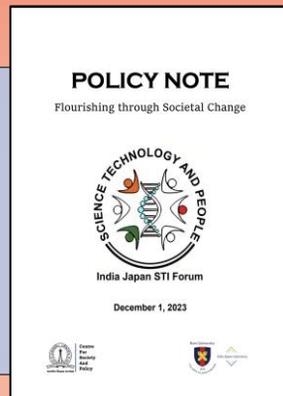


白石翼氏(Vice-Chairman)はチームとともに、特別に準備した90分の2コマの講義をイノベーションについて行いました。(2023年5月)

政策ノート 社会の変化を通じて繁栄を： 日印科学技術イノベーションフォーラム

第一回科学技術イノベーションフォーラムの成果として、インド科学大学院大学と慶應義塾大学日印研究ラボは協働して、二国間とそれを超えた関係を発展させるための方向性を提案すべく、本著をしたためました。

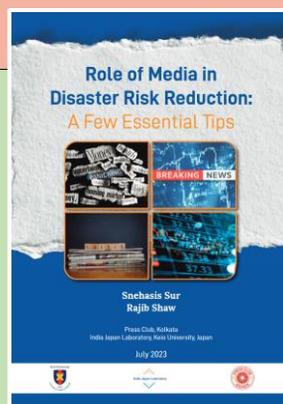
報告書はこちらからダウンロード：<https://indiajapanlab.org/wpj/wp-content/uploads/2024/01/16.-Policy-Note-Final.pdf>



災害リスク削減におけるメディアの役割： いくつかの必要なアイデアについて

日印研究ラボでは、コルカタのプレスクラブにて、災害リスク削減におけるメディアの役割について二回目のワークショップを行いました。過去の災害において学んだ教訓を伝えることが望まれています。災害報道をするメディア関係者、メディアグループの運営者やマネージャー、そして、ジャーナリスト志願者、マスメディアを学ぶ学生にとっても本著は役に立つことでしょう。

報告書はこちらからダウンロード：<https://indiajapanlab.org/wpj/wp-content/uploads/2024/01/15.-Role-of-Media-in-Disaster-Risk-Reduction-C.pdf>



IIMK 学生、横河電機本社/横河デジタル株式会社を訪問



松生幸宏氏(常務執行役員、デジタル戦略本部長 兼 デジタルソリューション本部 DX-Platformセンター長)と鹿子木宏明横河デジタル株式会社代表取締役とチームによりDX ビジネスの最先端について、将来を見据えたお話を伺いました(2024年2月13日)。



IIMKの学生とスズキ株式会社横浜研究所訪問

齋藤欽次氏(取締役専務役員、グローバル営業統括付)は、今回の初めての企画であるジャパン・イマージョン・プログラムのために、浜松本社他の会社拠点より、インド人従業員半数以上からなるスズキチームを動員。IIMKの学生たちに、研究者や社員にイノベーションについて講義。学生たちと交流しました(2024年2月12日)。





Rakuten

 YOKOGAWA
Co-innovating tomorrow

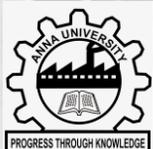
 人と人との交流
@KEIO


 India Japan Laboratory

国立研究開発法人科学技術振興機構 Japan Science and Technology Agency (JST)はインドの優秀な高等教育より49名の学生を、さくらサイエンス交流プログラムにて日本に招聘しました。三田キャンパスにある本学グローバルエンゲージメントオフィスと日印研究ラボは、インドからの学生たちのために二日間のプログラムを企画しました。

- インドの学生たちは、矢上キャンパスと日吉キャンパスを訪問、様々なラボを見学。
- ショウ ラジブ教授から慶應義塾大学について説明。JSTの西川裕治氏は、プログラムの概要について説明、安藤由香上席所員から一日目のおわりの挨拶がありました。
- 楽天の岡村光明氏、横河電機の船生幸弘氏を招き、両社のインドビジネスについて、プレゼンをしていただき、日印関係の可能性について語っていただきました。
- 武鏈行雄上席所員は、インドとIT産業についてイノベーションを中心に発表。
- 土屋大洋教授（常任理事）は、インドからの学生たちとのディスカッションを行い、武鏈行雄上席所員と川根友上席所員はファシリテーションを行いました。
- ショウ教授の Global Resilience and Innovation Lab (GRIL) に所属する学生たちは、日本での生活について学生たちと話し合いました。

インドからSakura Science Exchange Program 2023 @Keio に参加した大学



2023年12月1-2日：第一回科学技術イノベーションフォーラム

於インド科学大学院ベンガルール校

テーマ: 社会の変化を通じて繁栄を Flourishing through Societal Change



イベントパートナー



日印研究ラボコンソーシアムメンバー



日印研究ラボは、インド科学大学院大学ベンガルール校とのコラボにより、科学技術イノベーションフォーラムを二日間にわたり開催致しました。同校社会政策センターのアンジュラ・グルトゥー教授が率いるチームには、Dr. サティシュ・クマール・ヤヴァレとヴィーナ・グルラジャ女史がリードを取り、同学のほか、ラマイア大学からも学生、研究者、大学教員が参加しました。

■ 2023年5月、日印研究ラボとインド科学大学院は、このSTIフォーラムのロゴを、286件のエントリー作品から、スワプニル・シェドマケ氏のロゴを選びました。

■ 日印研究ラボのコンソーシアムメンバーである、楽天のナリニ・ジョージ女史 (Chief People Officer, Head of HR, Rakuten Bengaluru) と、横河ベンガルールのシュリカント・デシュムク氏からは全面的な協力を得ました。



STI Forum コーディネーションチーム

公式ページ:<https://csp.iisc.ac.in/indo-japan-st-forum/>



■ 政策ノートは、プログラムの全4セッションを経て、在日インド大使館西隆平第一等書記官とともに発表されました。

■ 日印両国の政府関係局、アカデミア、産業界から220名以上の参加者がありました。

■ 持続可能なオルタナティブやリサーチのポスター発表の展示もありました。

■ 学生と研究者には研究発表の場も、特別セッションを通じて行われました。

■ 日印研究ラボからは、ダイレクターのショウ ラジブ教授、安藤由香上席所員、アビシェーク・チョウドリ氏 (IJBCメンバー)、川根友上席所員が参加しました。



在日インド大使シビ・ジョージ閣下、インド工科大学コージーコーデ校学生と慶應義塾大学日印研究ラボと交歓

2024年2月5-16日: 第一回ジャパン・イマージョン・プログラム

日印研究ラボでは、ケララ州にあるインド工科大学コージーコーデ校 (Indian Institute of Management Kozhikode: IIMK)の学生39名を迎え、日本の様々な側面について、経験から学ぶ2週間にわたるプログラムを実施しました。引率はアヌパム・ダス助教でプログラムは川根友上席所員がコーディネート。IIMK と日印研究ラボは、在京インド大使館にてシビ・ジョージ大使を表敬訪問。氏がケララ州出身であることから、ウィットに富んだ知的なやり取りが行われ、日印関係についての情熱感じる交流となりました。



慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスにてIIMKの学生がGRILの学生と交流

- 防災についてのショウ ラジブ教授の講義後、学生たちは、東京臨海防災公園において、災害後72時間以内に必要な身を守る術(すべ)について学びました。
- 茶の湯、そして書道について、日本の哲学を交えた講義を受講。
- 日本大学ロックリー木下トーマス助教により、日本の首都の変遷について鎌倉にて講義。この後、鎌倉と江の島を散策。
- 横浜市から戸塚資源選別センターの体験訪問の許可を得ました。同センター控井豊所長、民間の廃棄物処理例としてのG U N社の廃棄物処理工場見学については、横浜市石田環氏、横浜インドセンターの若林和彦所長、G U N社石田憲生氏、レミン氏にお世話になりました。
- 武錠行雄上席所員によるスタートアップとイノベーションについての講義後、川崎市のイノベーションのインキュベーション施設であるKBIC、NANOIC、さらには、殿町のiCONM といった川崎市の諸施設を訪問。これについては、川崎市永田宏樹氏、向坂厚志氏、そしてアットドウス社中村秀則社長にレクチャーを、同社境ルカ氏にファシリテーションをしていただきました。
- 自由が丘学園とインディアインターナショナルスクール東京校訪問。
- 横河電機本社、スズキ横浜研究所訪問。
- 木戸祐輔さん(理工学部職員)、八幡悠二郎さん(理工学部一年)、SFCからアヌスカ・レイさん(日印研究ラボメンバー)がサポート。



技術イノベーションハブ 於インド工科大学德里校
仮想現実 (VR) でSDG 7(クリーンエネルギー)達成を
 9月27日 Dr. Bhimrao Ambedkar School of Specialized
 Excellence (德里)

9月29日 Amity International School (ノイダ)
 プログラムは高根佐知子(日印研究ラボメンバー)が実
 施しました。



日印学生交流についてのディスカッション
 2023年11月29-30日 在印日本大使館にて鈴木浩大使、
 スジャン・R・チノイ大使、現Director-General、the
 Manohar Parrikar Institute for Defense Studies and
 Analyses (MP-IDSA)、そして、サンティシュリー・
 ドゥリプディ・パンディット、Vice Chancellor、
 Jawaharlal Nehru University (JNU)と学生交流の可能性に
 ついてディスカッションを行いました。ショウ ラジ
 ブ教授、安藤由香上席所員が訪問、日印コラボを進め
 る方策について討議しました。

日吉キャンパスよりボランティア二名

2024年2月5-16日 木戸祐輔さん(ロボティク
 ス専攻)と八幡悠二郎さん(AI専攻)がジャパ
 ン・イマージョン・プログラムに参加。2月にイ
 ンドで企画した学生交流プログラムに応募した
 日本人学生は彼ら二人だけで、延期になってし
 まったので、インド経営大学コージーコーデ校
 の学生たちの日本でのサポートをお願いし、イ
 ンド人学生たちとの交流を深めてもらいました。



八幡さん、被災状況の説明



木戸さん、川崎市KBICに
 おける研究者経験を語る



日印イノベーションシンポジウム—研究進化、ネットワーキング、産業界とのパートナーシップ
 (NEDO とインド工科大学 (IITGN)の共催)

2024年3月11日: インドの新エネルギー・産業技術総合開発機構 (New Energy and Industrial
 Technology Development Organization : NEDO) は加来芳郎氏 (Chief Representative) が代表する組
 織です。NEDOとIITGNとのコラボでこのイベントが開催されました。東京大学、東北大学、島根大学と
 ともに、私学では唯一慶應義塾大学が招待され、IJLから川根友上席所員が参加・発表しました。参加者から
 は、日印研究ラボの活動を評価する声が上がりました。IITGNにてインキュベーションされたスタート
 アップやリサーチパークやラボの訪問も行いました。インド日本製鉄 (Nippon Steel India Private
 Limited) がCSRの一環としてリサーチパーク内に創った NAM:TECH は参加者の注目の的でした。